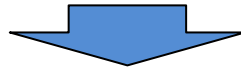


「きぼう」からの超小型衛星放出の特徴

- (1)衛星は、「こうのとり」等のISS物資補給機にて、補給物資と共に梱包状態で「きぼう」に輸送。
(ロケットからの直接放出より、衛星の設計・試験の簡素化が可能)
- (2)軌道上での、放出前の最終点検が可能。
- (3)放出作業には、「きぼう」のロボットアーム、エアロック及び衛星放出機構を使用。宇宙飛行士の船外活動は不要。

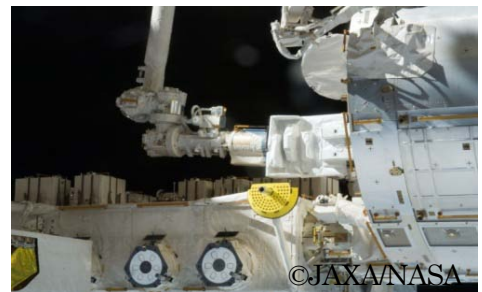


- ロケットからの直接放出よりも、**短期間で確実な軌道投入が可能**
- **中小企業・大学等**による宇宙開発への**参画を促進**



超小型衛星放出の準備をする若田飛行士

(画像は、2013年に実施された、日ベトナム共同開発の超小型衛星 (PicoDragon) ほかの放出時)



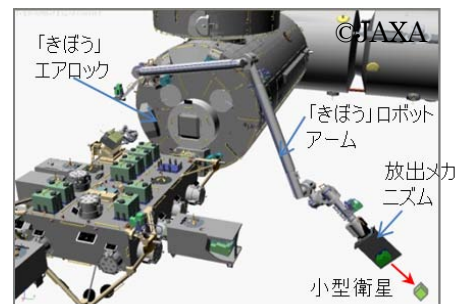
船外に運び出される超小型衛星

(画像は、2012年に実施された、和歌山大学/東北大学開発の超小型衛星 (RAIKO) ほかの放出時)



超小型衛星放出の様子

(画像は、2013年に実施された、日ベトナム共同開発の超小型衛星 (PicoDragon) ほかの放出時)



ISS「きぼう」からの超小型衛星放出 (全体図)

(画像は、2013年に実施された、日ベトナム共同開発の超小型衛星 (PicoDragon) ほかの放出時)